

図画工作科調査資料 作成の観点

項 目	観 点	
教育基本法、学校教育法の下 の小学校学習指導要領の教科の目 標とのかかわり	<p>○表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養うために、どのような工夫が見られるか。</p>	
特 色	内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <p>○造形的な創造活動の基礎的な能力を培う上で、どのような工夫が見られるか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○感性を働かせながら発想したり構想したりする上で、どのような工夫が見られるか。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○児童が自分に適した表現方法などを選ぶ上で、どのような工夫が見られるか。</p> <p><表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わう工夫></p> <p>○題材や学習内容の提示、作品等の選定について、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○鑑賞の対象の取り上げ方や表現との関連について、どのような工夫が見られるか。</p> <p><造形的な創造活動の基礎的な能力を養い、豊かな情操を養うための工夫></p> <p>○〔共通事項〕の指導などについて、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○言語活動の充実を図る上で、どのような工夫が見られるか。</p>
	資 料	<p>○発想を高めるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○基礎的・基本的な内容や表現の過程に関する資料について、どのような工夫が見られるか。</p>
	表記・表現	<p>○タイトルの示し方や図版等の説明について、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○説明の文章や児童作品等の作者の言葉について、どのような工夫が見られるか。</p>
総 括	(全体的な特徴、その他)	

<p>項目</p> <p>書名</p>	<p style="text-align: center; font-size: 2em;">図画工作</p> <p style="text-align: right;">開隆堂出版</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下の小学校教育指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○児童が、主体的に活動できるような活動の写真や児童の作品を多く取り上げ、意欲を喚起し、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わえるようになっている。</p> <p>○題材について、『目標』をマークで示すとともに、材料や用具を活用した作品づくりの仕方や可能性を写真や図版で示すとともに、振り返りの言語活動についても位置づけることで、創造活動の基礎的能力が身に付くようになっている。</p>
<p>特 内 容</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <p>○『道具箱』『パレットコーナー』で工作や絵を描く活動に必要な基礎・基本の知識や技法がまとめられ、各題材の中にも必要な材料や用具の扱いなどを囲みで示すことで、造形的な創造活動の基礎的能力を培えるようになっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○作品の解説は児童の思いや願いが伝わる表現となっており、発想のポイントをブルーの囲みで示し、発想や構想をするうえでのヒントになっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○目標と題材名のそばに活動内容を具体的に示すとともに、児童の主体的な活動につながる写真を多く提示し、活動のイメージをもちやすくしている。</p> <p><表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わう工夫></p> <p>○題材名や導入文、多様な作品の掲載によってイメージを広げ、想像をふくらませたり、表したいことを考えたりできるようになっている。また、『ふりかえってはなしあおう』では、言語活動を充実させながら児童自身で学びを確認できるようになっている。</p> <p>○『小さな美術館』をはじめとする巻頭・巻末ページと裏表紙は、表現する喜びや楽しさが感じられるようになっている。また、図版や写真から生活の中に造形の美しさがあることや、活動の写真から身近なところに造形活動があることに目を向けられるようになっている。</p> <p><造形的な創造活動の基礎的な能力を養い、豊かな情操を養うための工夫></p> <p>○題材ごとの「目標」や『ふりかえってはなしあおう』、作品に対する「作者の言葉」などによって、〔共通事項〕を意識させるようになっている。</p> <p>○完成作品ごとに「作者の言葉」があり、作品に対する作者の思いを知ることができるとともに、鑑賞題材では児童の意見が示され、『小さな美術館』では発達の段階に応じたテーマで作品について語り合えるようになっている。</p>
<p>色 資 料</p>	<p>○低学年では吹き出しを活用し、高学年では表し方の工夫として制作過程の思いや工夫を丁寧に書くことで、発達の段階に応じた発想や工夫の具体例を示している。</p> <p>○囲みを使って、題材に必要な表現の技法、表現の過程の工夫、材料に関する資料、用具の使い方などを示している。また、多くの作品に作者の思いを載せることで、工夫点や発想について示している。</p>
<p>表記・表現</p>	<p>○目標、題材名、導入文が最初に書かれ、最後に振り返りの観点が示されている。導入文は、児童の発想を広げる内容である。目次では、主な用具・材料が確認でき、活動に向けての準備ができるようになっている。</p> <p>○吹き出しや囲み、マークを使って、活動や工夫のポイントを伝えている。また、マークによって、培いたい力や関連するページを示している。作者の言葉も「」を使って表されている。</p>
<p>総 括</p>	<p>○発想が広がるような各学年のテーマや児童が自主的・主体的に課題追究できる題材名により、児童の造形活動への意欲を高めるようになっている。</p> <p>○豊かな材料例や多様な表現方法を紹介し、造形的な創造活動の基礎的な能力を培おうとしている。また、『みんなのギャラリー』、裏表紙では様々な作品を取り上げ、人との交流や未来への希望をもつことを意識しながら児童の感性を育もうとしている。</p> <p>○巻末の『道具箱』『パレットコーナー』で、材料や用具の扱いを示し、表現に必要な技法や知識を確認できるようになっている。</p>

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: center;">図画工作</p> <p style="text-align: right;">日本文教出版</p>	
<p>教育基本法、学校教育法の下の小 学校学習指導要 領の教科の目標 とのかかわり</p>	<p>○活動する児童の表情や様子の分かる写真や児童の言葉、児童の作品を多く取り上げ、意欲を喚起し、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わえるようになっている。</p> <p>○題材ごとに『学習のめあて』を明確に示すとともに、材料や用具の使い方について巻末の写真や図版で説明したり、幼保小中との連携を意識した図画工作の広がりや位置づけたりすることで、創造活動の基礎的能力が身に付くようになっている。</p>	
<p>特 色 内 容</p>		<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○『使ってみよう材料と用具』で工作や絵を描く活動に必要な基礎・基本の知識や技法がまとめられ、各題材ごとに『学習のめあて』と活動や主な用具をマークで示すことで、造形的な創造活動の基礎的能力を培えるようになっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○作品の解説は児童の思いや願いが伝わる表現となっており、活動のヒントを登場するキャラクターで示し、発想や構想をするうえでのポイントになっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○『学習のめあて』と題材名の下に活動内容を具体的に示すとともに、児童が主体的に活動している写真を多く提示し、活動のイメージをもちやすくしている。</p> <p><表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わう工夫> ○題材名や簡潔な導入文と授業情景写真によって活動内容が分かり、見通しをもって自分の思いを表現できるようになっている。また、題材ページの冒頭に『学習のめあて』が示され、子供たちと題材の目標を観点別に共有することができるようになっている。</p> <p>○『教科書美術館』をはじめとする巻頭・巻末ページは、表現する喜びや楽しさが感じられるようになっている。また、色や形の多様さに気付いたりイメージを広げたりすることができる図版や活動の写真から、身近なところに造形活動があることに目を向けられるようになっている。</p> <p><造形的な創造活動の基礎的な能力を養い、豊かな情操を養うための工夫> ○題材ごとの『学習のめあて』や「キャラクターの言葉」、「活動中の児童のつぶやき」などによって、〔共通事項〕を意識させるようになっている。</p> <p>○作品によって「作者の言葉」が書いてあり、作品に対する作者の思いを知ることができるとともに、作品制作中の児童のつぶやきを載せることで、自分の表現したいことを言葉で確認することができるようになっている。</p>
<p>色 資 料</p>		<p>○登場するキャラクターの言葉が制作するときの工夫や発想のヒント、鑑賞するときの視点などを示し、題材の目標に迫る助けとなっている。</p> <p>○活動の流れに沿って制作の様子や作品の工夫点を写真で示すとともに、写真に対し簡潔な説明や作者の思いを載せることで、完成までの過程をまとめている。また、いくつかの作品には作者の思いや表現の工夫が示されている。</p>
<p>表 記 ・ 表 現</p>		<p>○活動内容、題材名、学習のめあて、導入文がひとまとまりになって示され、導入文は、児童の創作意欲を高める内容である。目次では、活動の内容がマークと写真で確認できるようになっている。</p> <p>○キャラクターが活動や工夫のポイントを伝え、『きをつけよう』『かたづけ』という言葉とマークで活動のポイントを簡潔に示している。作者の言葉も囲みを使って表されている。</p>
<p>総 括</p>		<p>○造形活動を通して育てたい力をテーマとして設定している。また、活動内容が分かる題材名により、造形活動への意欲が高まるようになっている。</p> <p>○技法や制作の手順が写真や説明文等で示され、造形的な創造活動の基礎的な能力を培おうとしている。また、『図画工作の広がり』では、活動を通じた人との触れ合いや身近な地域、社会との共生の様子を紹介し感性を育もうとしている。</p> <p>○巻末の『使ってみよう材料と用具』で材料や用具の扱いを示し、表現に必要な技法や知識が6ページにわたり幅広く紹介されている。</p>

図画工作科調査資料2

〇分量について

		開隆堂	日文
1 総ページ数 ※表紙、裏表紙を全て含む。	1・2年上	46	58
	1・2年下	46	58
	3・4年上	46	58
	3・4年下	46	58
	5・6年上	48	58
	5・6年下	48	58
2 材料や場所などを基に造形遊びをする 活動のページ数	1・2年上	5	8
	1・2年下	5	8
	3・4年上	4	8
	3・4年下	3	8
	5・6年上	3	4
	5・6年下	2	4
3 絵や立体、工作に表す活動のページ数	1・2年上	29	32
	1・2年下	28	30
	3・4年上	29	30
	3・4年下	30	30
	5・6年上	30	28
	5・6年下	27	28
4 鑑賞の内容のページ数	1・2年上	11	6
	1・2年下	10	8
	3・4年上	9	6
	3・4年下	10	7
	5・6年上	10	15
	5・6年下	12	15
5 材料や用具の扱いに関する内容の ページ数	1・2年上	4	6
	1・2年下	4	6
	3・4年上	4	9
	3・4年下	4	8
	5・6年上	4	6
	5・6年下	2	6

○作者別作品数について

		開隆堂	日文
1 児童の作品数	1・2年上	74	81
	1・2年下	75	79
	3・4年上	96	78
	3・4年下	91	85
	5・6年上	94	90
	5・6年下	91	102
2 日本人の作家の作品数	1・2年上	8	2
	1・2年下	7	3
	3・4年上	9	2
	3・4年下	11	5
	5・6年上	5	17
	5・6年下	6	11
3 外国人の作家の作品数	1・2年上	4	3
	1・2年下	2	1
	3・4年上	1	0
	3・4年下	2	4
	5・6年上	2	4
	5・6年下	4	4
4 その他の作品数 (文化財、民芸品等)	1・2年上	2	0
	1・2年下	3	0
	3・4年上	8	2
	3・4年下	2	17
	5・6年上	8	4
	5・6年下	7	4